

農業環境インベントリー展示館

Natural Resources Inventory Musium of NIAES

谷山一郎\*

Ichiro Taniyama

農業環境インベントリーセンターにおいては、これまで「土壤保全・モノリス実験棟」に「土壤モノリス展示館」、「病理昆虫標本館」と「環境資源分析センター」内に「昆虫標本館」と「微生物標本館」を設置し、各種標本の充実に努めるとともに、「土壤モノリス展示館」では土壤モノリス標本と断面調査データおよび土壤図などを、昆虫や微生物などの標本の一部については「環境資源分析センター」内の「展示室」に陳列し、見学者の便を図ってきた。しかし、両室の間は 100m ほどの距離があり、行き来に不便であるとともに、昆虫・微生物の「展示室」が手狭になってきた。このため、

「土壤保全・モノリス実験棟」内の「土壤水分解析室 (33.5m<sup>2</sup>)」と「土壤試料保存室 (33.5m<sup>2</sup>)」の壁を撤去して一つの部屋として改装を行い「昆虫・微生物展示室」とするとともに、同実験棟の名称を土壤モノリスや昆虫・微生物標本などを総合的に展示する「農業環境インベントリー展示館」に変更した(図1, 2, 3)。

研究所の一般公開が行われた 2005 年 4 月 20 日の朝に、研究所の役員らによる案内板の除幕式が行われ、その後多数の一般の来訪者がこの展示館を訪れた。

新たに開設された「昆虫・微生物展示室」は玄関ホールの右手にあり、室の入口から向かって右側が微生物、左側が昆虫の展示コーナー、その奥は画像情報・データベースのコーナーとなっている。

微生物コーナーでは、標本の種類ごとに、さく葉標本、乾燥標本や真空凍結乾燥標本などを展示している。微生物が寄生した植物をそのまま乾燥し、紙に包んださく葉標本として 1903 年に採取されたアカガシに寄生している *Cystothrea Wrightii* など 6 点がある。また、シャーレに乾燥剤をバックして乾燥させた乾燥標本が 10 点、ガラスのアンブルに封入した真空凍結乾燥標本としてビワが

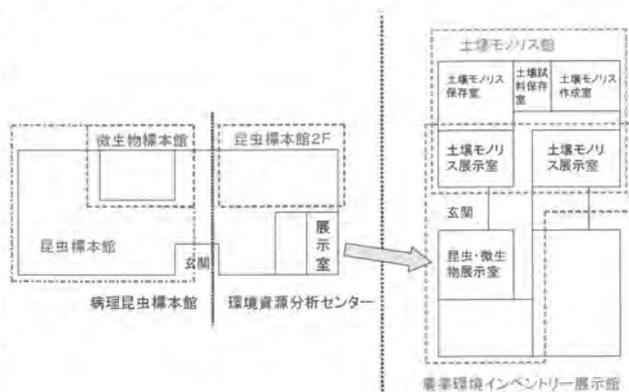


図1 農業環境インベントリー展示館の概要



図2 農業環境インベントリー展示館  
(玄関の右側が昆虫・微生物展示室)

\*農業環境インベントリーセンター長

Director, Natural Resources Inventory Center

インベントリー, 第5号, p38-39 (2006)

んしゅ病の病原細菌などとともに、微生物永久保存用の液体窒素容器を陳列している。さらに、病原菌のプレパラート標本を顕微鏡で観察して、図鑑と見くらべて微生物を同定する作業も体験できるように設備が配置されている。

昆虫コーナーでは、乾燥標本、液浸標本、プレパラート標本および凍結乾燥標本などとともに、昆虫の類縁関係と体の構造を示したパネルの下にトンボ目やチョウ目など20の目の代表的な標本をショーケースの中に展示している。その隣には、クリの害虫で中国を原産とするクリタマバチなど11種の標本を新たに侵入した昆虫や害虫化した昆虫についての研究成果を解説したパネルとともに陳列している。また、つくば市宍塚の水田畦畔で採取したカメムシ59種の標本と拡大写真を展示パネルで示し、多様な昆虫が生息していること、水質の変化によって水生昆虫の種類がどのように変わるかを紹介している。さらに、新たな種の決定する際の基準となるタイプ標本（正基準標本）の例として *Cimidaerous hasegawai* の標本と新種記載の論文を陳列するとともに、形状の面白い東南アジア産のコノハムシやバイオリンムシ、色の美しい南米産のミドリオニカミキリ、巨大なテイオウゼミやさまざまなアゲハチョウなどの美麗昆虫の標本22種を展示している。

その他、室の奥にはパソコンやDVDプレーヤーと接続した52インチのリア型プロジェクターを設置している。インターネットを使って、農業環境技術研究所で作成された農業環境データベースシステムを利用できるとともに、さまざまな画像情報を大型スクリーンで表示できる。また、顕微鏡で拡大した微小昆虫の画像をこの大型スクリーンに投影して、美しい画像を観察・鑑賞することも可能である。

今後、状況を見ながら展示内容の拡充を図っていく予定である。

#### 問い合わせ先

農業環境インベントリーセンター長 谷山一郎  
電話：029-838-8351 e-mail：erosion@affrc.go.jp



図3 昆虫・微生物展示室の内部

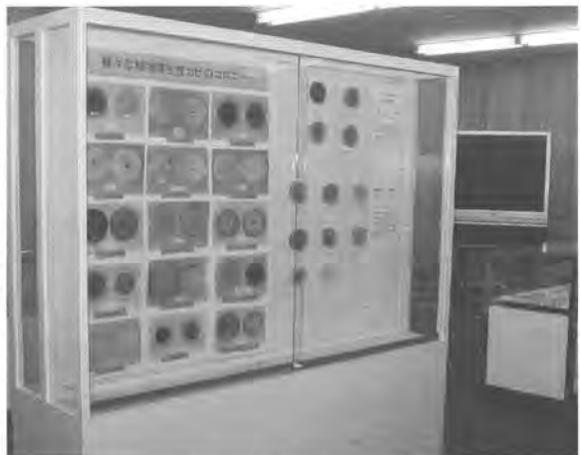


図4 微生物標本の展示



図5 一般公開の状況